

先生と弟子の物語

頁四百三十三の教育論的認識

2 欲求権としての先生と弟子の関係

「この」における 先生と弟子との関係を反するうえで、最初の手がかりをフリールの欲求権論

に求めよう。欲求権論とはどのようなものである。欲望は、欲望する対象自体に固有であり、主体から生じるものと考えられている。しかし、欲望は自分

自身から自然にわき起るものでない。欲望が自己の内部に根ざしていると考えるのは「自律性」としてフリールは「媒体と主体」の欲望を「欲求者（フリール）とよんでい）が構成する

ところから生み出される。媒体が主体とするとする対象への欲望を主体が構成し、あたかも自己のうちに生じ

たように欲望を抱くのである。学生期においては、先生の講義や指示や指導を構成するところから生じ

たように欲望を抱くのである。学生期においては、先生の講義や指示や指導を構成するところから生じ

たように欲望を抱くのである。学生期においては、先生の講義や指示や指導を構成するところから生じ

たように欲望を抱くのである。学生期においては、先生の講義や指示や指導を構成するところから生じ

たように欲望を抱くのである。学生期においては、先生の講義や指示や指導を構成するところから生じ

たように欲望を抱くのである。学生期においては、先生の講義や指示や指導を構成するところから生じ

たように欲望を抱くのである。学生期においては、先生の講義や指示や指導を構成するところから生じ

Kを構成する「先生」として「先生」を構成する「私」

このフリールの欲求権論は、「この」に登場する「先生」との関係、「先生」と「私」との関係

をより説明し得るようになる。先生は経済的精神的に短乏している同郷の友人Kに、自命の下宿に一掃に住むよう誘う。Kは

「先生」は経済的精神的に短乏している同郷の友人Kに、自命の下宿に一掃に住むよう誘う。Kは

「先生」は経済的精神的に短乏している同郷の友人Kに、自命の下宿に一掃に住むよう誘う。Kは

「先生」は経済的精神的に短乏している同郷の友人Kに、自命の下宿に一掃に住むよう誘う。Kは

「先生」は経済的精神的に短乏している同郷の友人Kに、自命の下宿に一掃に住むよう誘う。Kは

「先生」は経済的精神的に短乏している同郷の友人Kに、自命の下宿に一掃に住むよう誘う。Kは

「先生」は経済的精神的に短乏している同郷の友人Kに、自命の下宿に一掃に住むよう誘う。Kは

「先生」は経済的精神的に短乏している同郷の友人Kに、自命の下宿に一掃に住むよう誘う。Kは

「先生」は経済的精神的に短乏している同郷の友人Kに、自命の下宿に一掃に住むよう誘う。Kは

